小立野台地・嫁坂コース

緑育む小立野台地「起伏に富んだ坂道」との出会い

金沢を代表する河岸段丘のひとつ、小立野大地。金沢城公園・兼六園から伸びるこの台地は、段丘崖が豊かな自然環境をもたらすとともに起伏ある地形が、数多くの坂道を今に残しています。

嫁坂 ➡ いし曳の道 ➡ 下馬地蔵 ➡ 亀坂 ➡ 聞敬寺 ➡ 善光寺坂 ➡ 大清水 ➡ 猿丸神社 ➡ 小立野台緑地 ➡ 勘太郎川 ➡ 新坂

嫁坂

●嫁坂

本多の森から石引方面の崖地沿いの道を進みます。崖下から伸びている樹木の間を野鳥たちが飛び交い、目を向けると木々の間から寺町台のまちなみがみえます。

嫁坂は、藩政時代初期、坂の上に住んでいた加賀藩の重臣が、娘を嫁がせるときに作った坂とされ、桜御影石張りの淡い色が優しい雰囲気を醸し出しています。坂の上からは、穏やかな緑をみせる野田山、さらに、陽光に輝く昔ながらの黒瓦屋根をはじめとした家々が眺められ、金沢らしいまちなみを俯瞰できるポイントとなっています。

●いし曳の道

坂を下りずに、そのまま小路を進みます。寺院が立ち並んでいます。「いし曳の道」とは、石引通りを中心とした小立野寺院群をつなぐ散策路で、このかいわいは「勘太郎川ルート」の中程のみちすじとなります。特に慶恩寺境内のシダレザクラは、昭和18年に植えられ、樹高16m、幹周2.5mにもなる立派なもので、満開時のあでやかさは見事なものです。これほど素晴らしいものは兼六園以外、市内ではあまりみることができません。

●下馬地蔵

二十人坂のある通りから右折し、波着寺から酒蔵の角を進み、大通りへと歩を進めると、地蔵堂がみえてきます。

下馬地蔵は、金沢城用の巨石運搬の安全を祈り建てられたものが前身といわれ、その後、天徳院の下馬として祠が設けられました。現在は地蔵堂が残り、そう呼ばれています。

●小立野かいわい

懐かしさを感じさせる小立野の通りに入り、橋の欄干とベンチが心和ませる亀（がめ）坂を右にみながら進みます。聞敬寺の境内では、青空に向かって屹立するクロマツが印象的で、本堂に寄り添うように立つ姿は、ほのぼのとした温かさを感じます。通りの最後が善光寺坂となり、下るにつれ視界が開け、笠舞のまちなみが広がります。

●笠舞の大清水

坂中程の小路を右に折れ進むと、三角形の池がみえてきます。大清水（おおしょうず）と呼ばれ、一年中、静かに清らかな水を湛（たた）えています。

この大清水は、市街地にある代表的なわき水で、深さ約12㎝、崖側の一辺の下より水がわき出ています。昔は、洗濯のすすぎや野菜洗いに利用され、また、夏には子どもたちの絶好の水遊び場になるなど、地域の方々に愛される交流の場となっています。池の中ではドジョウやカメが、石垣の間からはサワガニたちの姿がみられることもあります。時折、カモなどが水浴びをしているなど、大清水は、野鳥たちにも親しまれているようです。

●猿丸神社

笠舞の静かな住宅地を進み、犀川大通りから猿丸神社へ向かいます。

猿丸神社は、金沢最古の神社のひとつで、三十六歌仙のひとり猿丸太夫（さるまるだゆう）の旧房跡だと伝えられています。境内は、ケヤキ、タブノキを中心とした樹林で、特に樹高25m、幹周5.8mにも達するケヤキなどの大木10本の雄姿には心奪われ、歴史の重さを感じます。ケヤキ、タブノキ、イチョウなどの高木22本、ツバキ、モミジなどの低木41本で、夏は深緑、秋は緑、黄、深紅と色彩を演出しています。参道左の貴重なヤマトアオダモが神社のご神木となっています。

●小立野台緑地から勘太郎川へ

猿丸神社から緩やかな道を本多町方面へ進みます。階段を上った高台に小立野台緑地があります。金沢大学官舎跡地で、小立野台地中腹の景観上恵まれた場所に位置しています。園内には、サツキ、ツバキ、サザンカなどが植えられています。また、ホオジロ、シジュウカラなど園内で見られる小鳥たちを紹介した看板も設置されています。

このかいわいは、勘太郎川があり、水の流れが感じられます。笠舞の大清水と辰巳用水の分水などが合わさり、緩やかで心和む流れを創出しています。川に架かる新坂一の橋を渡れば、右に新坂、正面が嫁坂です。